

令和8年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修通信

知りたい・知ってほしい研修

第6回開催 令和8年7月28日(火)

テーマ

「インクルーシブ教育の実現と移行支援シート」
～切れ目ない支援をめざして～

参加者内訳: 保育所(園)5名・幼稚園2名・認定こども園14名・小学校2名・療育施設2名

解説



- ◆宇治市教育総合推進センター
学校教育課
副課長

葛山 雅

『インクルーシブ教育の実現に向けて』
～インクルーシブ教育の理念をふまえた
「学びのデザイン」～



- ◆元花園大学 社会福祉学部
臨床心理学科 教授
- ◆宇治市インクルーシブ
サポーター

渡邊 実 氏

『乳幼児期からはじめる
「ともに生きて ともに育ち
ともにつながる」環境づくり』
～インクルーシブ教育の視点を日々の
あそびと関わりにどう活かすか～

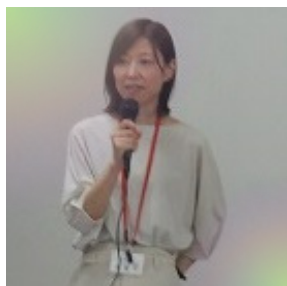
実践発表



- ◆榎島ひいらぎこども園
園長
- ◆宇治市乳幼児教育・保育
推進協議会
発達・子育て支援専門部会員

宇野 智子 氏

『移行支援シート活用フィードバック』



- ◆宇治市立ひがしうじ幼稚園
(併) 乳幼児教育・保育支援センター
主任

森尾 麻香

『移行支援シートについて』
『宇治市移行支援シート作成マニュアル』



解説からの学び

キーワード：「環境がつくるインクルーシブ」



参加者の心に残ったこと

♡ 共に生活することの大切さ：

特別な知識を勉強する以上に、障害の有無に関わらず「共に生活する時間」そのものが周囲の子どもたちを豊かに育てていくという視点にハッとさせられた。

♡ 「つまずき」を環境で考える：

子どものつまずきを子ども個人の責任にするのではなく、**周りの環境や教え方（社会モデル）で解消できる**、という考え方

♡ 「困っている子」であって「困った子」ではない：

障害のある子だけにフォーカスを当てるのではなく、**一人ひとりがその子らしく生きやすい環境を整える**ことの大切さ



実践のポイント

★ 問いのベクトルを変える：

子どもが活動しにくそうな時、「その子の能力」を疑う前に、「**環境や伝え方にどんな『障壁（バリア）』があるだろうか？**」と考える。

★ みんなの1歩を大切にする：

各学校のチェックリスト（指標）や小学校の「気づく・考える・表現する」活動への繋がりを意識し、「**1人の10歩より、みんなの1歩**」の精神を大切にする。

★ まずはまなざしを変える：

実際の現場では環境調整が難しい現状もあるからこそ、まずは「**見方を変える**」という当事者としての意識改革からスタートする。



園校で実践してみよう

✓ 「この子は困った子だ」と感じたとき、「**この子は何に困っているのだろう？**」と問い直してみよう。

✓ クラスの環境を見渡して、「**誰かが過ごしにくい場所・場面はないか？**」を職員同士で話し合ってみよう。

✓ 「**気づく・考える・表現する**」の3つの活動が、今日の保育・授業の中にあったか振り返ってみよう。





実践発表からの学び

キーワード：「想いをつなぐ移行支援シート」



参加者の心に残ったこと

♥子どもの笑顔のための手立て：

書類を書くこと・読むことが目的ではなく、**子どもたちが何よりも楽しく小学校に通えるようにするための手立て**なのだと原点に立ち返ることができた。

♥強みを生かす大切さ：

大まかでも「まず**その子の全体像や課題が分かること**」「**その子の強み（好きなこと）**」が書かれているだけで、学校現場では関わりの手立てになると知った。



実践のポイント

★書き方の工夫：

まずは、大まかな子どもの姿（「給食が苦手」「言葉が出ない」など）が伝わればOK。詳細すぎず、**読み手を意識**する。

★本人・保護者の思いを中心に：

子どもと保護者の不安・願い・思いを丁寧に記録することが最重要

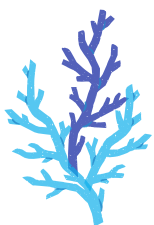
★顔の見える対話とセットにする：

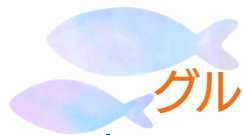
シートを間に置いて「保幼小連絡会」などを活用して、**対話をもつ**ことで、単なる書類のやり取りで終わらせない「切れ目ない支援」へと繋げる。



園校で実践してみよう

- ✓ まだ移行支援シートを使っていない園・校は、まず職員全体に「こういうものがある」と**共有することから始めましょう**。
- ✓ シートを書く際は、「小学校の先生が読む」ことを意識して、**具体的かつ読みやすく書く工夫**をしてみましょう。
- ✓ 小学校では、新1年生を迎えるにあたり、届いた移行支援シートや要録をただ「確認する」だけでなく、「園の先生方はどんな思いでこの子を送り出してくれたのかな」と、保育者の**思いを引き継ぐまなざし**で目を通してみましょう。





グループワークでの気づき

キーワード:「具体的に・保護者と共に・口頭でも伝える」



参加者の心に残ったこと

♡みんな同じ悩みを抱えている：

- ・移行支援シートを保護者と一緒に作成する難しさや、園と保護者で子どもの捉え方が違った時の対応など、**他園の先生方も葛藤を抱えている**と知り、話せてよかった。
- ・**提出時期や対象児童の基準やマイノリティの子どもたちについての情報伝達について考えていく必要**がある。

♡逆の立場で考えてみる：

「もし自分が小1の担任だったら…」と考えることで、文字だけで子どもたちを理解する小学校の先生の大変さに気づいた。逆の立場を考えることで**「どんな情報が本当に必要か」**明確になり、考えやすくなったと思った。

♡環境や背景まで伝える：

書面（文字）の工夫だけでなく、「本人の仲の良い友達」といった**周囲の環境を書き添える**配慮や、**直接口頭で伝えられる場**があるとよい。



実践のポイント

★具体的かつ簡潔に：

- ・**「どういう手立て（支援）を行ってきたか」**を意識して記入する。
- ・読み手の先生がパッと見て**イメージしやすい**ユニバーサルな書類づくりを意識する。

★周囲の環境も記入：

その子だけでなく、仲の良い友だちや**周囲の環境についても記入**することで、小学校での環境配慮に役立つことがある。

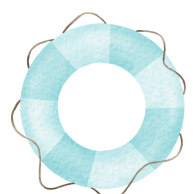
★書面＋口頭で伝える：

シートだけでなく、連絡会などで**直接話せる場を設ける**ことも大切（2月頃の連絡会を子どもの情報を引き継ぐ大切な機会としてみる）



園校で実践してみよう

- ✓ シートを作成する際に、「小学校の先生の立場」になって、**「何が一番知りたいか」を想像**してみよう。
- ✓ 連絡会などの場を活用し、シートの内容を**口頭でも補足できる機会**をつくりましょう。





明日からの実践への還元

キーワード:「明日から踏み出す『私の第一歩』」



やってみたいこと	具体的なアクション
記録を大切に	移行支援シートを念頭に置いて、日々の保育記録を丁寧にとる。
環境を整える	誰にでも優しく、一人ひとりが過ごしやすい環境づくりを意識し、クラス・学年で話し合う。
園・校内で共有	今日の学びをまず職員に伝え、インクルーシブ教育の共通理解を深める
保幼小連携	・交流や参観の機会を大切にし、つながりを深める。 ・園で作っていただいたものをどのように生かし、子どもたちが生き生きと生活していくことに役立てられるか、考えていきたい。
スモールステップ	小さな「できた!」の積み重ねを意識した教育・保育実践
視点を広げる	通常級・支援級という視点だけでなく、インクルーシブに子どもを考える。



まとめ

インクルーシブ教育とは、特別な支援が必要な子どものためだけの取り組みではありません。**すべての子どもが、その子らしく生き生きと過ごせる環境をつくる**ことが大切です。

移行支援シートは、その思いをバトンとして小学校へつなぐ大切なツールです。保護者と共に作り、**具体的に・読み手を意識して書く**ことで、子どもたちの「楽しい小学校生活」を支えることができます。

一人ひとりの子どもを真ん中に置き、園校・家庭・地域が手をつないで、**切れ目のない支援**を実現しましょう。



明日へのヒント



★今日から始めてみましょう!

- 1 「困った子」と感じたとき、
→ 「困っている子」と捉え直し、「**何に困っているのだろう?**」という視点で考えてみましょう。
- 2 記録をとる
→ **日々の何気ない子どもの姿や手立てをメモしておく**ことが、未来の小学校の先生にとって貴重なバトンになります。

※ この研修通信は、研修での学びを広く共有するために、研修後の参加者の振り返りシートをもとに作成・発行しています。

園(校)内研修や日々の振り返りにご活用ください。

次回の研修へのご参加もお待ちしております。
ご質問等がございましたら、下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。

nyuyoajicenter@city.uji.kyoto.jp

